

第4回 宮内庁三の丸尚蔵館収蔵品の保存・公開の在り方に関する有識者懇談会 議事概要

1 日時：平成30年6月27日（水）15：30－16：55

2 場所：宮内庁第一会議室

3 出席者 別紙のとおり

○議題 宮内庁三の丸尚蔵館収蔵品の今後の保存・公開の在り方に関する提言とりまとめ

事務局からの説明

（資料1）宮内庁三の丸尚蔵館の今後の保存・公開の在り方に関する提言（案）

提言とりまとめについては、前回有識者懇談会ご欠席委員からもご意見を頂いている。

提言（案）の前回からの変更点は、「4. 今後の保存公・公開の在り方（1）②美術的価値の保存を確実にし、効果的に展示するための施設の拡充」に、教育普及発信に関する記述を追記。「（2）③施設の有料化について」に、検討について、「多方面から」の文言を追記。別添資料＜参考＞「各項目に対する、有識者の意見」に前回委員ご発言を追記している。

上記に対する意見は以下の通り。

・別添資料の「イギリスでは王室のプライベート・コレクションをクィーンズギャラリーで公開」との表記は事実と違うので修正をお願いしたい。

事務局より；記載より、プライベートの箇所を削る。

・保存に関しては十分であるが、活用に関しては不十分であり、多言語解説について、文化庁・観光庁の方針に沿うべきである。多言語対応については哲学の問題であり、ネイティブチェック・ネイティブライティングが必要であるが、予算の問題もある。しかし、皇室に関連する展示であり完璧なものでなければならないので、提言に盛り込むべきである。

事務局より；頂いたご意見については、議事にも記載し、しっかりと取り組んでいく。

・多言語解説は英語以外の言語においても、ネイティブチェックは必要である。ただ、人によってチェックのポイントが違うので、そう言う意味では三の丸尚蔵館収蔵作品のことを分かっている人でないといけない。

○宮田座長より宮内庁次長へ提言伝達

○事務局より；「有識者懇談会の今後の進め方について（案）」、「新築棟の完成・公開までのスケジュール」について説明。

提言を踏まえ、今後、施策の具体化を図ってまいりたい。

まず、第1期工事終了後の一部運用開始を目指し、組織、定員、情報発信など計画的に準備を進めたい。施設の有料化についての検討、施設名称についての検討も我々の考えをご報告しながら決めていきたい。収蔵品の価値を分かりやすく示すことの検討については、文化庁と検討を始め、適宜ご報告をしながら進めたい。また、組織・運営の在り方については、事務的に検討を進め、平成31年6月又は7月に報告したいと考えている。

上記に対する意見は以下の通り。

・多言語解説は簡単なものではないので、専門的に早い段階から検討を始めた方がよいのではないか。建物名称も含めて専門の検討会の必要もあろうかと思う。

文化庁、観光庁の協力を得て一步踏み込むべきであろう。

・広報について、館の名称や有料化などの情報をどの時点でどのくらい発信するのか、スケジュールを作る必要があるのではないか。

・情報発信や人員要求するにも準備期間、資料まとめなどで事前の検討期間が必要である。

事務局より；人員・組織の検討は平成31年概算要求に向けて今夏から検討させていただく。

・新築棟の建物の名称は早く決めましょう。

・解説では、和文から翻訳してそれをネイティブチェックするやり方と参考資料を示してネイティブライティングを行うという二つの方法がある。どちらで行うかは哲学の問題となる。

・組織化の問題では収蔵物の性質は違うが、正倉院事務所という前例があり、それを踏まえ検討する必要がある。

文化庁より；いろいろ課題もあるが、引き続き宮内庁と相談しながらご報告させていただきたい。

事務局より；本日、提言を頂きましたがスタートラインであり、これから庁を挙げてしっかり対応してまいりたい。今後ともよろしくご指導をいただきたい。

○宮田座長より

本日、本懇談会の提言案をまとめることができた。収蔵品の調査から懇談会における熱心な議論まで多大なご協力感謝申し上げます。

成果として3点挙げさせていただく。

・収蔵品全体の約9,800点のうち、約4分の1（約2,484点）が美術史的・歴史

的・学術的見地から優れた作品として精査された。

・増築案の方向性について、これら優品の特性に相応しい三の丸尚蔵館の新しい姿を描けた。

・大学・国立博物館との連携による展覧会実施の提言もいただき、皇室由来の優品のすばらしさに触れていただく機会を提供することとなった。

今後、提言を踏まえ、宮内庁において新しい三の丸尚蔵館の実現に向け具体的な検討を期待する。引き続き検討の節目には委員の意見をいただく機会を設けたいと思うので、皆様のご協力をお願いしたい。

宮内庁三の丸尚蔵館収蔵品の保存・公開の在り方に関する有識者懇談会（第4回）

○出席者

【有識者委員】

高階 秀爾 大原美術館館長
宮田 亮平 文化庁長官
松原 茂 根津美術館理事兼学芸部長
南條 史生 森美術館館長
田沢 裕賀 東京国立博物館 学芸研究部長
富田 淳 東京国立博物館 学芸企画部長
古田 亮 東京藝術大学 大学美術館准教授
デービッド・アトキンソン (株)小西美術工藝社 代表取締役社長

(年齢順)

【事務局】

宮内庁

【オブザーバー】

文化庁, 観光庁